

進化の深化。

The Ongoing Evolution - M7CL Version3 -



- M7CL StageMix for iPad™
- Auvitrans Network ASIO Streamerに対応したM7CL-48ES
- M7CL V3 Editor for Mac
- Waves SoundGridインテグレーション
- M7CL Version 3.5
- Yamaha Console File Converter

DIGITAL MIXING CONSOLE

M7CL

VERSION3

M7CL-48ES / M7CL-48 / M7CL-32

より素早く、より直感的に。モニターセットアップの新しい提案。

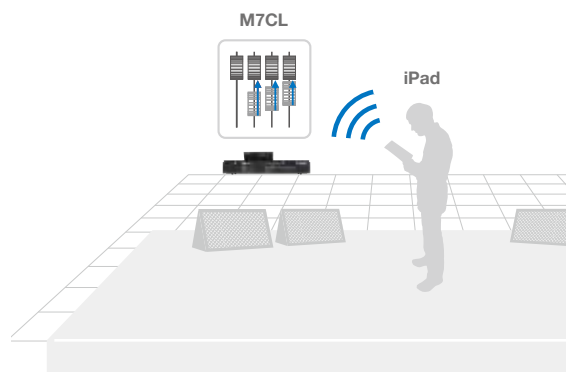
M7CL StageMix for iPad™

StageMix



Input Channel Faders

M7CL StageMixはM7CL Version3のパラメーターをワイヤレスコントロールするiPadアプリケーションです。M7CL StageMixを使用すれば、モニターエンジニアはステージ上でパフォーマーのポジションから直接M7CLのミキシングパラメーターを操作できるようになります。iPadならではのシンプルかつ直感的な操作性によってセットアップの時間が短縮され、M7CLのライブサウンドセッティングがさらに快適なものとなります。



Sends on Faders



Parametric EQs

システム条件

- ・StageMixがインストールされているiPad
- ・WiFiアクセスポイント (iPadとM7CL Version3をワイヤレス接続するために必要)

※M7CL StageMixはApp StoreSMから無料でダウンロードできます。

※iPadは米国及びその他の国々で登録されたApple Inc.の登録商標です。



機能

M7CL StageMixはM7CL Version3の下記パラメーターに対応しています。

[コントロール可能なパラメーター]

- Sends on Faders
 - Input Channel Faders
 - Input Channel On/Off
 - Input Channel Parametric EQs
 - Input Channel Cue
 - Mix Master Faders
 - Mix Bus On/Off
 - Mix Bus Parametric EQs
 - Mix Bus Cue
 - Last Cue/Mix Cue Mode
 - Clear All Cues
 - Graphic EQs (*)
- *Graphic EQsのコントロールは次期バージョンにて対応予定です。

[表示のみのパラメーター]

- Input Channel Names
- Input Channel Meters
- Mix/Matrix Bus Names
- Mix Bus Meters
- EQ Input Meter
- EQ Output Meter

ライブレコーディングをよりシンプルに。接続はケーブル1本で。

AuviTran Network ASIO Streamerに対応したM7CL-48ES

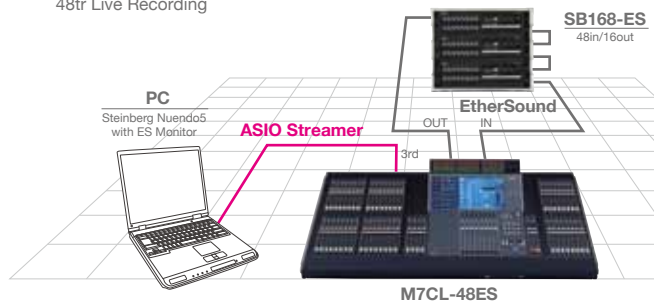


AuviTran Network ASIO StreamerはEtherSoundとASIOという2つのデジタルオーディオ規格間の橋渡しをします。これにより、EtherSoundシステムにASIOベースのマルチトラックライブレコーディング&プレイバック環境を追加できるようになります。M7CL-48ESの3rdPort端子とSteinberg Nuendo5等がインストールされたPCをCAT5eケーブルで繋ぐだけで、48トラックのライブレコーディングシステムが構築できます(*)。ライブレコーディングのためにM7CL-48ESが装備している3つのMYスロットが犠牲になることはありません。WavesSoundGridカード「WSG-Y16」を装着する等、様々な用途に活用できます。

*M7CL-48ESに接続されている3台のSB168-ESに入力された48チャンネルの信号をそのまま3rdPortから取り出し、レコーディングが行えます。使用にあたっては、M7CL-48ESファームウェアおよびEtherSoundモジュールのバージョンアップとコンピューター側でのASIOドライバーおよびDAWソフトウェアのインストールが必要です。

System example

48tr Live Recording



ASIOについて

ASIO (Audio Stream Input/Output) は、Steinberg社が開発したオーディオドライバーのプロトコルで、可変ビット、ハイサンプルレート、マルチチャンネルのオーバーレイと同期をサポートしています。高いポテンシャルをもつASIOプロトコルに対応したオーディオデバイスとの組み合わせによって、ホストコンピューターのCPUを活用したネイティブ環境における低レイテンシーシステムが実現します。ASIOの優れた設計思想により、様々なソフト/ハードウェアメーカーから対応製品がリリースされており、業界標準のドライバーとしての地位を確立しています。

仕様

<Host PC minimum specifications>

- オペレーティングシステム：Windows Vista or Windows 7 (32-bit or 64-bit)
- プロセッサー：Dual core CPU, clock speed 2GHz以上
- メモリー：2 GB 以上
- ネットワーク：Gigabit Ethernet 端子
- ストレージ：高速かつ大容量のハードディスク

<M7CL-48ES/3rd Port>

- ファームウェアバージョン：M7CL-48ESファームウェア V3.5
EtherSoundモジュール 0x0C17以降(*)
- チャンネル数：M7CL-48ESの3rdPortから最大48チャンネルのアウトプット及びインプットが可能(インプットとアウトプットはM7CL-48ES本体からのモード切替による)
- 量子化ビット数：24bit
- サンプリング周波数：44.1 kHz, 48kHz

*最新版はAuviTran社のウェブサイトから無償ダウンロードが可能です。

お待たせしました。Mac版の登場です。

M7CL V3 Editor for Mac

世界中のユーザーからフィードバックいただいたご要望により、Mac版「M7CL V3 Editor」のリリースが実現しました。M7CL V3 EditorのMac対応化に加え、M7CL/LS9本体とMac本体を接続するための「Network-MIDI Driver」も新たに開発。Mac版「M7CL V3 Editor」は、これまでのWindows版と同様「Studio Manager Version2」上で動作し、機能・操作性ともにOSによる差異はありません。ご好評をいただいているM7CL V3 Editorの新機能もMac上で使用することが可能です。



Wavesサウンドをライブステージへ。

Waves SoundGridインテグレーション

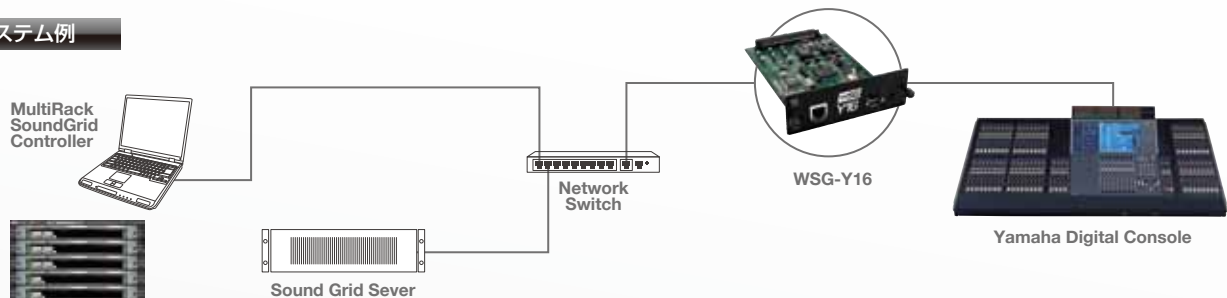


高音質、そして豊富なラインナップにより、レコーディング/編集の現場で絶大なる評価を受けているWavesのプラグインエフェクト。そのWavesプラグインがヤマハのデジタルミキサー上で使用可能になりました。Waves社は、汎用サーバーPCを用いてミキサーの外部でプラグインエフェクト処理を行なうSoundGridシステムを新規開発、プラグインエフェクト処理専用のサーバーを用いることで多数のエフェクトを同時に使用でき、さらに低レイテンシーを実現します。ヤマハデジタルミキサーのMini-YGDAIカードスロットに装着したWSG-Y16とSoundGridサーバー、コントロール用PCをCAT5ケーブルで接続するだけでヤマハデジタルミキサー内蔵のエフェクト群に加えて、様々なWavesプラグインを用いたミックスが可能になります。なお、1枚のWSG-Y16カードでは最大16チャンネル分の処理を行うことができます。



※Waves SoundGrid、WSG-Y16のお問い合わせ先
タックシステム株式会社 TEL:03-3442-1525

システム例



新しい機能でさらに快適に。最良のサウンドを提供するために。

M7CL Version3.5

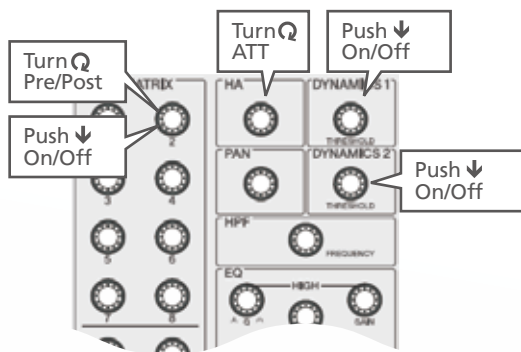
M7CL Version3の魅力さをさらに高める数々の新機能を追加。ワークフローの改善、現場で即戦力となる機能など、さまざまな面が強化されています。

※M7CL Version3.5はヤマハプロオーディオサイトから無償ダウンロードが可能です。



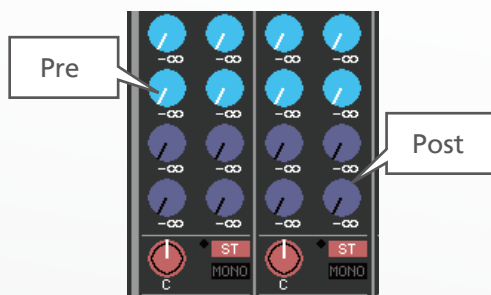
Alternate functions for Selected Channelを追加

User Defined Keysに本機能を割り当てることで、さらに快適な操作が行えます。



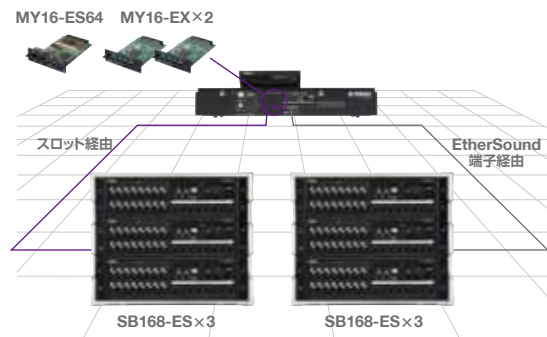
Overview画面でのMIX Pre/Post 表示に対応

ノブの指標が白の場合はPre、黒の場合はPostで表示されるようになり、よりわかりやすくなりました。



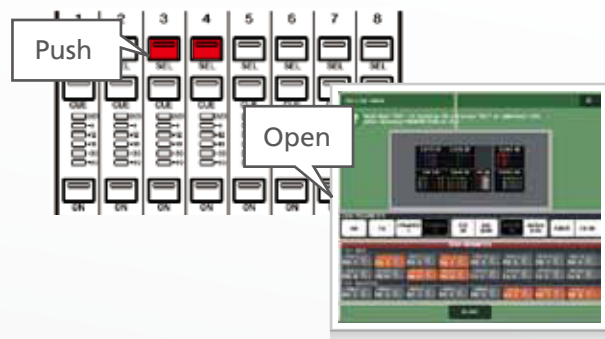
SLOT1からのHA Remote信号出力に対応 (M7CL-48ESのみ)

EtherSound端子に接続した3台のSB168-ESに加え、MY16-ES64とMY16-EXを装着したスロット経由でも3台のSB168-ESを接続できるようになりました。最大96chをM7CL-48ESに接続しバッチ切替で48chを立ち上げることができます。



[SEL]キーの同時押しでChannel Link ウィンドウがポップアップ

これまでのヤマハデジタルミキサーの操作性と近くなり、機種が変わっても違和感なく操作できるようになりました。



その他のM7CL Version3.5 バージョンアップ内容

[本体機能]

- PEQのQのパラメーター値が16 まで対応
- PEQのQノブの押廻しでシェルビング/ピーキングの切替が可能
- サブネットマスクが255.0.0.0まで拡張

[M7CL V3 Editor機能]

- Output Portウィンドウを追加
- Mix to MatrixがSends on Fader モードに対応
- Selected ChannelウィンドウでのMix Name表示に対応
- ショートカット機能の追加
 - > 右クリックでのMix SendのAll Post/Pre一括切り替えに対応
 - > Overviewウィンドウ上のDynamics / EQエリアでのダブルクリックによる Selected Channelウィンドウのオープンに対応
- TABキーでのテキストボックス移動に対応

M7CLのデータがPM5DやLS9でも使えるようになりました。

Yamaha Console File Converter

※Yamaha Console File Converterはヤマハプロオーディオサイトから無償ダウンロードが可能です。



世界中のPM5Dユーザー、M7CLユーザー、LS9ユーザー間のデータ互換環境をYamaha Console File Converterが提供します。M7CLとPM5D、M7CLとLS9の間でコンソールデータのやり取りが可能になります。

主な特長

- PM5D ↔ M7CL、M7CL ↔ LS9間のコンソールデータの互換をサポート
- 複数のシーンメモリーに含まれる共通パラメーターを交換可能 (HAやチャンネルネーム含む)
- 互換性の無いパラメーターはデフォルト値に設定
- コンパートに関する3つのオプションを装備
- Win/Mac両対応 (当初はWinのみの対応となります)



感動をともに創る

ヤマハ株式会社

お客様お問い合わせ窓口

プロオーディオ・インフォメーションセンター (電話受付: 祝祭日を除く月~金 / 11:00~19:00)

TEL: 03-5791-7678 FAX: 03-5488-6663 オンラインサポート <http://jp.yamaha.com/support/>

PA事業部 〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

<http://proaudio.yamaha.co.jp>

- すべての仕様は予告なく変更する場合があります。
- 本カタログに記載の社名・製品名等は、各社の商標または登録商標です。
- 本カタログに印刷された商品の色調は、実際の商品と多少異なる場合があります。



このカタログは
大豆インキで
印刷しております



このカタログは
無塩素漂白 (ECF) パルプ
を使用しています

Printed in Japan

カタログコード QMK1011

2010年11月作成